

論文審査の要旨

報告番号	修第 1285 号	氏名	酒井 麻里
論文審査担当者	主査 教授 弘中 祥司 副査 教授 鈴木 久義 副査 教授 上條 竜太郎		
(論文審査の要旨)			
<p>これからの高齢社会において、口腔健康管理をより科学的かつ理論的・視覚的に提示できるようにし、医療者側と患者とが共通認識の持てるツールがあれば、患者への情報提供やモチベーションの強化を効率よく行うことができると考えられる。近年、う蝕関連菌検査を5分間で測定できる唾液検査システム (AL-55) が開発され、臨床の場で多用されている。しかし、本法と従来から使用されているう蝕関連菌検査法(従来法)とを比較検討した報告は認められない。そこで、学位申請者、酒井麻里は同一患者から採取した唾液を対象に、AL-55 と従来法との関連性について比較検討した。</p> <p>昭和大学歯科病院の歯科ドック受診者、および定期健診受診者の中から、男性6名、女性14名の合計20名を対象とした。これら対象者の年齢は12-74歳(平均46.2±34.2)であった。</p> <p>AL-55の検査結果では、むし歯菌数が少ないとの判定は17名、pHが高い者は9名であった。従来法の検査結果ではむし歯菌数が15未満の者は、男性が6名、女性が6名であった。これらの結果から、AL-55は従来法と比較し、う蝕に関しては、リスクが低いものほど有効であることが示唆された。う蝕の発生には多くの因子が関連していることが知られていることから、従来法とAL-55を組み合わせた検査を行い、両者の結果を合わせ、評価することにより、正確な情報を患者へ伝えることが可能になることが推察された。</p> <p>以上の審査結果から、本論文は学術的価値があり、修士(保健医療学)の学位授与に値するものと判断した。</p>			